

厚幌ダム定礎式 式辞

厚真町長の宮坂です。北海道との共同事業者としての立場からご挨拶させていただきます。

本日は、共同事業者の北海道知事をはじめ、大勢のご来賓の皆様を迎えての厚幌ダム定礎式が、このように盛大に挙行できますことを、心から感謝申し上げます。

昭和 61 年度の実施計画調査に始まり、今日まで長い年月にわたり、北海道知事をはじめとした多くの方々と関係機関の皆様にご尽力を賜り、改めてお礼申し上げます。

特に、厚幌ダム地点の幌内地区並びに地権者の皆様には、深いご理解と心からのご協力を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。

厚真町は、本町を縦貫する厚真川と豊かな自然環境からの恵みにより、今日まで穀倉地帯として発展してきましたが、時にその自然は人の営みにとって大変な脅威ともなります。明治 30 年に厚真村として開村以来、間もなく 120 年を迎える本町の歴史は、水害との闘いの歴史でもあります。

そうした本町の宿命から、水害のないまちづくりは町民の悲願となりましたが、一方で、厚真川とその支流域に広がる 3,500 ㍊の水田へのかんがい用水が不十分であり、加えて水道水源の確保も儘ならないことが度々でありましたことから、やがて厚真川総合開発計画が策定され、その核心施設として厚幌ダム建設が計画されました。

本事業の構想が持ち上がって以降だけでも、大規模な災害は 4 度あり、被害総額は 110 億円にも達しています。また、昨年の春耕期には 250 ㍊にも及ぶ水田でかんがい用水不足となりました。

本日定礎式を迎えた厚幌ダムは、洪水調整容量で 760 万 m^3 、かんがい用水・水道水源・流水の正常な機能の維持などの利水容量で 3,550 万 m^3 の多目的ダムであります。平成 30 年には供用開始となる予定であります。関連事業である国営かんがい排水事業、道営ほ場整備事業、統合簡易水道事業、厚真川河川改修事業のそれぞれのストック効果、産業振興や生活安定に資する成果と相まって、当該ダムは厚真町の発展の核心であり礎となると確信しています。

結びになりますが、北海道におかれては引き続きのご努力と安藤ハザマ・岩田地崎・田中 JV、西田鉄工(株)をはじめとした工事関係者の安全施工、そして本日ご臨席の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げ、式辞といたします。

平成 27 年 8 月 8 日

厚真町長 宮 坂 尚市朗